



エ ル シ ン LSIN

ニュースレター 2008 No. 4

特定非営利活動法人 環瀬戸内自然免疫ネットワーク

— 自然免疫と健康維持 —

LSINは、特定非営利活動法人 環瀬戸内自然免疫ネットワーク(Nonprofit Organization Linking Setouchi Innate immune Network)の略であり、平成13年に設立された自然免疫賦活技術研究会を母体として、平成18年3月22日に設立されたNPO法人です。詳しくは <http://www.lsin.org> をご覧ください!!

イノベーション:21世紀型NPO法人に向けて

理事長就任の挨拶 特定非営利活動法人 環瀬戸内自然免疫ネットワーク 理事長 上田和男

この度、特定非営利活動法人環瀬戸内自然免疫ネットワーク(LSIN)の総会(5月23日)にて、理事長に選出されました上田和男と申します。簡単に自己紹介をさせていただきます。

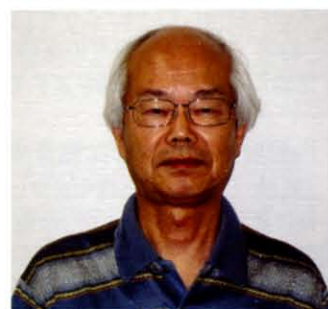
1939年7月徳島県生まれ、徳島県技術吏員として、その大半を公設試験研究機関(略称:公設試;欧米ではKohsetsushiで通用)に所属し、地域の中小企業者等と共に35年間歩んで参りました。その後、徳島県の技術支援財団に身を置き、科学技術庁の地域研究開発促進拠点支援(RSP)事業の新技术コーディネータ、経済産業省の広域的な事業支援ネットワーク拠点重点強化(NW)事業のクラスター・マネージャーとして、大学等のシーズ発掘や企業のニーズ調査、異業種・異分野のネットワークに関わって参りました。

LSINの母体であります「自然免疫賦活技術研究会」は、RSPの16の技術分野別研究会の一つとして設置、当研究会の会長を杉源一郎教授にお願いした次第です。また、NW事業では、「徳島食材(菌床生椎茸、なると金時、蓮根)の高度活用技術研究会」の会長を杉教授に務めて頂きました。コーディネート活動を意識してから、およそ20年余が経過しました。その間、中小企業者とはもとより、四国経済産業局、(独)産業技術総合研究所四国センターを始め、産官学の多大なご支援をいただきました。関係機関のご支援無しには私の活動は継続できなかったと思っております。

プロローグ

ご承知のとおり、「第3期科学技術基本計画(平成18年度から5カ年)」の基本理念の一つには、「社会・国民に支持され、成果を還元する科学技術」が挙げられております。LSINの目的及び事業は、この基本計

画の政策目標の理念の一つであります「健康と安全を守る～子供から高齢者まで健康な日本を実現」に寄与することとしております。すなわち、人々のために健康で快適な生活と安全で安心な社会環境の実現にLSINが貢献できればと考えております。そのためには、その時代に課せられた課題と役割を的確に捉え、行動する必要があると理解しております。



LSINの足腰を強化

LSINは、平成18年3月8日付徳島県知事の認証を受けて以来、2年余が経過しました。NPO法人は、平成10年12月にNPO法が施行され、10年弱が経過しました。NPO法人の認証は31,362法人、うち、内閣府の認証法人は2,490法人(内閣府、平成19年4月30日)、活動分野を見ますと、LSINが掲げている活動の種類(1)保健・医療・福祉は58.0%と最も多く、(2)科学技術は4.1%、(3)経済活動は11.2%、(4)消費者保護は5.0%となっております。NPO法人の活動状況は、年間収入1,000万円未満の法人は約6割、活動資金の不足を課題として認識している法人は、それぞれ約7割を占めております。LSINの事務局機能強化や活動資金の確保のため、会員数増加を始め、寄付金等を受け入れる体制を整備いたします。

本号のニュース

- ・イノベーション:21世紀型NPO法人に向けて
- ・連携協定書調印式
- ・自然免疫賦活技術研究会 会員企業紹介
- ・新製品紹介

— 目次 —

- ・イノベーション:21世紀型NPO法人に向けて
理事長就任の挨拶 理事長 上田和男1
- ・連携協定書調印式 LSINと財団法人三宅医学研究所2
- ・自然免疫賦活技術研究会 会員企業紹介
第2回 川崎三鷹製薬株式会社3
- ・小麦発酵抽出物を主成分とした濃縮ドリンク 新発売!!3
- ・ひげ博士のホットレポート—最新免疫学講座—4
- ・LSIN会員募集4
- ・編集後記4

自然免疫賦活のプレゼンス

LSINの事業は、自然免疫賦活技術研究会の実施や自然免疫賦活技術の調査・研究及び普及・啓蒙事業が主体となっております。そのため、研究会で採り上げる素材から事業化までのルール作りを臨床部会が中心となって検討し、それを「業務手順書」として公表いたします。その内容では、安全性・効果実証試験、製品のトレーサビリティ、販売方法やクレームの対処などについても言及します。また、個別、団体等を問わず、求めに応じ積極的に普及・啓蒙を展開して参ります。

医療機関との連携協定の締結

香川県高松市の財団法人三宅医学研究所(三宅信一郎理事長)とLSINは安心・安全な食・健康・バイオ戦略を遂行し、質の高い健康維持に資する技術・医療・製品・研究等の開発と実践を行うことを連携趣意書とする連携協定書を去る7月24日、調印いたしました。

今後、安全性・効果実証試験等を実施する上で、財団法人三宅医学研究所(附属セントラルパーククリニック)が果たす役割は極めて大きく、LSIN単独では実施困難な事業展開が可能となりますので、大いに期待しているところです。

他方、福岡県福岡市の医療法人喜悦会那珂川病院との連携協定調印に向けて、準備を進めているところです。

内閣府の認証並びに認定NPO法人に向けて

冒頭、LSINの体制強化を申しました。現在、LSINの事務所は徳島県に設置しておりますが、活動体制の強化を図るため、新たに香川県高松市に事務所を設置することとしております。NPO法により、事務所が2以上の都道府県の区域内に設置する場合は、内閣府の認定が必要です。そこで、内閣府の認証(内閣総理大臣認証)を受けべく、準備を進めております。

他方、認定NPO法人制度は、寄附を促す制度です。その目的は、「NPO法人への寄附を促すことにより、NPO法人の活動を支援すること」にあります。認定NPO法人のメリットは、税制上の措置で大きく

分けて2つあります。その1つは寄附者に対するもの、2つ目は認定NPO法人に対するものです。税制上の措置以外にも、内部管理がしっかりする。社会からの信用が高まるなどの評価が得られると言われております。認定NPO法人になるための要件は、パブリック・サポート・テストが一定以上の基準であること、ほか7項目をクリアしなければなりません。以上の条件をすべてクリアすると、国税庁長官の「認定」を受けることが可能となります。高いハードルではありますが、準備を進めます。LSINの足腰の強化とも符合し、物心両面の充実強化に繋がるものと確信しております。認定NPO法人の有効期間は、平成20年度から5年に延長されております。

協働と革新

以上の目標の達成のためには、LSINの活動のあらゆる場面に於いて、障壁を作らず、開かれた場を提供するイノベーションでLSIN活動を展開いたします。国の長期戦略指針「イノベーション25」によれば、イノベーションとは、技術の革新にとどまらず、これまでとは全く違った新たな考え方、仕組みを取り入れて、新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすことと定義しております。また、従来の政府主導による「個別産業育成型」、「政府牽引型」から、国民一人ひとりの自由な発想と意欲的・戦略的な取組みを支援する「環境整備型」へと考え方を大きく転換していかねばならないと言われております。そして、イノベーションの本質が既存の仕組みを大きく変えることから、その担い手についても、NPO法人等多様な担い手がイノベーション創出に向けた活動を展開しなければならないと言及しております。

そこで、LSINも国の長期戦略と整合性を保ち、活動展開を図って参ります。

最後に、寺田弘前理事長をはじめ、理事・監事の皆様の献身的な活動に心から感謝申し上げますと共に、微力ながらLSINの活動発展に全力を尽くす決意でございますので、会員をはじめ、関係各位のご支援を切にお願い申し上げます。

連携協定書調印式 LSINと財団法人三宅医学研究所

LSIN(上田和男理事長)と財団法人三宅医学研究所(三宅信一郎理事長)は、平成20年7月24日に三宅リハビリテーション病院(香川県高松市)にて連携協定書の調印式を行いました。

これは、同年4月3日に行われた連携協定書の仮調印を受けて、5月23日のLSIN総会及び5月27日の財団法人三宅医学研究所理事会・評議員会での賛同を得て、正式に調印されたものです。上田理事長の挨拶にもありましたが、今後LSINが主体となって行う安全性・効果実証試験等を実施する上で同財団法人(附属セントラルパーククリニック)が果たす役割は極めて大きく、LSIN単独では実施困難な事業展開が可能となります。

今後両者は協力して、安心・安全な食・健康・バイオ戦略を遂行し、質の高い健康維持に資する技術・医療・製品・研究等の開発と実践を行っていきます。



川崎三鷹製薬株式会社

川崎三鷹製薬株式会社(本社：神奈川県川崎市)は「変革と創造」をモットーとし、平成16年12月に共立製薬グループの一員として発足しました。合併して約3年半という新しい会社ですが、合併前の各社はそれぞれ50年を超える動物用医薬品の製造販売の経験から、畜水産業界における豊富な実績と蓄積されたノウハウを持ち、これは新会社に引き継がれ、事業展開の強固な礎になっています。

当社は畜水産業界のニーズ、家畜及び養殖魚の健康増進と生産性の向上に応えるため動物用医薬品、飼料添加物、混合飼料そして畜産用器具機材等幅広い製品を製造販売しています。

そして消費者の皆さんが安心して食べることのできる肉・卵・牛乳・魚を生産者の方々が供給できるように、より優れた製品・サービスを提供し、今後も「食の安全・安心」へ貢献していきます。

本社及び川崎工場は有名な川崎大師の近くに位置しており、年初は多くの初詣客で賑わいます。

生産拠点は3工場となり、東城工場（広島県庄原市）は飼料添加剤、散剤、飼料添加物そして混合飼料などの粉末製剤、



東城工場全景

埼玉工場（埼玉県熊谷市）は注射用製剤及び経口用液剤、そして川崎工場（神奈川県川崎市）はアンプル製剤を主に製造しています。

物流は埼玉県加須市、熊本県熊本市そして広島県庄原市を主な拠点とし、生産者の方々に確実にそしてスピーディに製品をお届けするための製品流通のシステムを構築しました。

営業活動は6ヶ所の営業所、すなわち北日本営業所（北海道札幌市）、東北営業所（宮城県大崎市）、東日本営業所及び中日本営業所（東京都三鷹市）、西日本営業所（岡山県岡山市）そして南日本営業所（熊本県熊本市）を拠点とし、全国的な販売及び情報提供に全力投入しています。そして水産関係は愛媛県宇和島市に水産営業部を置き、より生産者の近くでタイムリーな営業活動を心がけています。

また、生産者のニーズにあった製品開発にも積極的に取り組み、国内畜水産業そして動物医薬品業界の発展に貢献できるような努力をしています。



本社正門

新製品紹介

小麦発酵抽出物を主成分とした濃縮ドリンク 新発売!!



Lecher
Premium Drink
M & M

小麦発酵抽出物を主成分とした濃縮ドリンク「プレミアム ドリンク M&M」が、本年6月25日、株式会社ル・シェール(本社：東京都港区)より新発売されました。

商品名の由来は、2つのM(M=マクロファージ M=免疫)。このことからわかるように、M&Mには自然免疫賦活物質である小麦発酵抽出物を中心に、乳酸菌EC-12、メカブフコイダン等が配合されており、免疫サポート機能が期待されています。加えてM&Mには、D-リボース、ルテイン、アスタキサンチン等の有用成分も含まれています。

同社によると、特筆されるのは、発売して日が浅いにもかかわらず、「飲んですぐに結果が出るし、味も最高!」というお客様の声が多量に聞かれるとのこと。そのためか愛飲者の輪は日増しに広がり、同時に主成分である小麦発酵抽出物に対する評価も高まっているとの話です。

ちょっと一息：ひげ博士のホットレポート—最新免疫学講座—

メタボ、メタボと騒がれておるが、正確にはメタボリックシンドローム。何でも省略するのは日本人の悪い癖じゃのう。

さて、メタボの根本問題に脂肪があるが、脂肪の代謝とマクロファージは大事な関係があるのじゃ。コレステロールはすべての細胞にとって必要な脂肪だから、体中に運ばなくてはならん。それを担っているのがLDL(低比重リポタンパク質)で、世間では『悪玉コレステロール』と言われておるが、これは非科学的で良くない言い方じゃのう。

このLDLは酸化されると酸化LDLという物質になるが、これは毒性が高いと言われておる。体の至る所で酸化LDLは出来るんじやが、マクロファージが極めて効率よく取り除いてくれていて、体は守られておるのじゃ。

しかし、もし、LDLと活性酸素が非常にたくさんあるとマクロファージも対処しきれない、例えば動脈じゃよ。血管が傷つき、炎症が続くとLDLが酸化され続ける。それを除こうとやってきたマクロファージが動けなくなっても食べ続け、その結果、マクロファージの細胞内にコレステロールの油滴がたくさんたまってしまふんじや。この状態を動脈硬化症と呼んでおる。

日々、マクロファージが処理出来る範囲でコレステロールを制御する生活しておくことが出来れば、マクロファージが酸化LDLを取り除いてくれるので、健康な状態が保てるということじゃな。



LSIN会員募集

LSINでは会員を募集しています。LSINの活動に賛同していただける方であれば、どなたでも入会できます。

入会を希望される方は、以下の入会手続きをご参考ください。

(1)ホームページからの入会手続き

下記のURLにアクセスし、ホームページ内の「入会のご案内」→「入会申込フォーム」に必要事項を明記の上、お申込ください。

LSIN URL : <http://www.lsin.org>

(2)郵送またはFAXによる入会手続き

「入会申込書」をLSIN事務局まで郵送あるいはFAXでご請求下さい。

「入会申込書」に必要事項を明記の上、事務局まで郵送あるいはFAXにて送付ください。

「入会申込書」の下部に記載している振込先へ、入会金・年会費をお振込ください。

事務局から「入会手続き完了」の連絡をお送りします。

※「入会手続き完了」のご連絡は、事務局にて入会申込書と入金を照合し、入会手続きが完了した時点でお送りします。

入会申込書の送付と入会金・年会費のお振込完了後、2週間を過ぎても連絡がない場合は、お手数ですが事務局までお問い合わせください。

●入会金・年会費一覧

入会金			年会費		
正会員	個人会員	10,000円	正会員	個人会員	10,000円
	企業会員	30,000円		企業会員	50,000円
賛助会員	個人会員	10,000円	賛助会員	個人会員	10,000円
	企業会員	30,000円		企業会員	50,000円
モニター会員	入会金なし		モニター会員	年会費なし	

〒771-1342 徳島県板野郡上板町佐藤塚字西388-1

特定非営利活動法人 環瀬戸内自然免疫ネットワーク

TEL: 088-652-6026 FAX: 088-669-2967

(MOBILE: 090-2783-5885)

E-mail: npolsin@lsin.org URL: <http://www.lsin.org>

編集後記

LSINニュースレター No.4をお届けします。

上田前編集長の理事長就任により、編集長を拝命した中本尊です。どうぞよろしくお願ひいたします。

今号では、冒頭に、7月1日付けでLSIN理事長に就任した上田和男理事長の挨拶を掲載しました。LSIN発足の経緯、医療機関との連携、内閣府の認証並びに認定NPO法人、LSINの今後の活動について述べられており、ご一読いただければLSINの全てがわかると言っても過言ではない内容となっております。かなりの長文ですが、どうぞ皆様もお読みいただき、LSINへの理解を深めていただければと思います。

また、財団法人三宅医学研究所との間で連携協定書の

調印が行われました。この連携によりLSINの活動の幅が広がることが期待されます。

今後、他の医療機関とも連携を行い、LSINを核としたネットワークが形成され、安全性・効果実証試験の実施を初めとして自然免疫を活性化させる食品の普及や疾病の予防・治療が実行されることを望んでおります。

最後になりますが、猛暑の中、原稿をご執筆いただいた方々、編集委員の皆様にご心より厚くお礼申し上げます。

編集長 中本 尊

LSIN事務局

LSINニュースレター編集委員

編集長 中本 尊 編集員 稲川裕之 中本優子 谷口芳枝

平成20年8月29日発行